【311】

氏　名（国籍）	姜（かん）　信善（しんぜん）（韓　国）
学位の種類	博　士（心　理　学）
学位記番号	博　乙　第　1670　号
学位授与年月日	平成12年11月30日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	心理学研究科
学位論文題目	幼児における社会的地位とコミュニケーション行動との関係

主　査	筑波大学教授	教育学博士	杉　原　一　昭
副　査	筑波大学教授		堀　洋　道
副　査	筑波大学助教授	教育学博士	桜　井　茂　男
副　査	筑波大学助教授	博士（教育学）	長　崎　勤

論文の内容の要旨

本研究は，仲間関係研究の流れの中で「仲間関係の問題と介入的観点」に基づいて社会的不適応示す子どものスキル訓練プログラムに具体的な示唆を与えるために計画された。

そこで，健常児を対象とし，普段の用事のコミュニケーション行動と社会的地位との関係を，仲間との相互作用場面の観察を通して明らかにすることを主な目的とした。まず，研究1から研究5では，調査面接研究により幼児の社会的地位及び社会的地位変動に関連する要因（研究1，研究5）や幼児の社会的行動特徴の評定においての評定者間の差（研究2，研究3，研究4）について検討した。その結果，社会的行動特徴と社会的地位との関連については従来の研究で指摘されているように，攻撃性は仲間からの拒否に，引っ込み思案は仲間からの無視に関連していることが示された。コンピテンスや攻撃性は社会的地位に縦断的にも関連していることが示された。

社会認知的特徴及び母親の発達期待年齢と社会的地位変動との関係については次のようなことが示された。すなわち，社会的高地位維持群と社会的低地位維持群は両群とも高い社会的認知得点を得ていたが，幼児の社会的スキルに対する母親の発達期待年齢において両群の間には差が示された。すなわち，社会的スキルの達成期待年齢において社会的高地位維持群の母親は早い時期に期待しているのに対して，社会的低地位維持群は遅い時期になっていた。このような結果から，社会的地位変動のないこの2つの群については認知的側面の発達の違いではなく，母親の養育態度の違いが子どもの仲間関係での社会的行動様式に影響し，社会的地位の差を生じた可能性が推察される。

評定者間の差は，特に引っ込み思案行動において示された。すなわち，引っ込み思案行動の見方は評定者によってまた，評定対象の性別によって異なることが示唆され，状況や立場で見方が異なることが示された。特に，仲間からどのようにみられるかは，仲間関係における適応において重要であることから，仲間との相互作用場面を観察し，どのようなやりとりのエピソードが仲間からの受容や拒否につながっているのかを明らかにする必要があると指摘できる。

そこで，研究6から研究10では，幼児の社会的地位とコミュニケーション行動の関係を明らかにするために仲間入り場面を用いた実験観察を行った。研究6では，日本の幼児に適したコミュニケーション観察カテゴリーを作成した。研究7から研究10では研究6で設定されたコミュニケーション・カテゴリーを用い，社会的地位及び

社会的地位変動とコミュニケーション行動との関連について検討を行った。実験観察研究の主な結果は次の通りである。

社会的地位の低い群，すなわち無視児と拒否児に関連する目立った傾向として，無視児はホストの時のスキル，すなわち受け入れるときのスキルが未熟であること，拒否児はエントリーの時のスキル，すなわち仲間入りするときのスキルが未熟であることが，それぞれフィードバックと言語的返答の結果から示された。。無視児群は，自分がエントリーのときは，相手の働きかけにたいしてフィードバックを与えたり，言語的に返答するなどの関わりを示しているが，受け入れる側になったときに，それらの行動が少なく，関わりの消極性が顕著であることが見い出された。拒否児の場合は，無視児とは全く反対に，ホスト側では示しているスキルを，エントリーではあまり行っていなかった。このような結果から，スキルトレーニングへの示唆として，無視時の場合は仲間入りを受けるときの応答の積極性，拒否児の場合は仲間入りをするときのスキルを身に付けさせることが有効であることが考えられる。

最後に，本研究では，社会的地位の変動群を設定し，縦断的検討を行ったが，特に注目すべき結果として，社会的低地位維持群で，社会的認知課題では高得点であったにも関わらず，年中・年長を通して言語的働きかけが他の群より少ないことがあげられる。不適応児への臨床的介入の際には，認知面だけではなく，このような認知と行動のずれを検討した上での援助が必要であることが示唆された。

審査の結果の要旨

本研究は，長期に渡る実験観察研究を行い，幼児の社会的地位とコミュニケーションの関係を丹念に調べた労作である。社会的地位の低い幼児のうち，無視児は友人を受け入れるときのスキルが未熟であるのに対し，拒否児は仲間入りをするときのスキルが未熟であること，社会的低地位維持群では社会的認知は発達しているが言語的働きかけが遅れている場合があること，などを明らかにしたことは注目される。情報量が多いため分析しきれていない点があること，ソシオメトリック方法の実施上に若干の問題があることが指摘されたが，社会的不適応児に対するスキル訓練の具体的なプログラム立案のための基礎的資料を提供した点は高く評価される。

よって，著者は博士（心理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。